



2018.10.5  
第167号

**発行**  
村会会  
町員議支会  
市協議支  
県委津支  
島育絡会  
福教連北  
教連北耶  
育成育

**編集**  
福島県教育庁  
会津教育事務所

**編集協力**  
小・中学校長会

# 戊辰一五〇周年に想う



会津教育事務所  
業務次長兼学校教育課長  
石本 浩 一

若松城の築城は、一三八四年、  
葦名直盛がこの地に館を築いた  
ことに始まるといわれます。本  
格的な近世城郭としての築城を  
命じたのは蒲生氏郷で、豊臣秀  
吉の時代、甲州流の縄張り（設  
計）で、中央に天守を設け、櫓  
と馬出などを造り、石垣を高く  
築きました。その石垣を積んだ  
のは、安土城、大坂城の工事を  
請け負った穴太衆とされていま  
す。その後、外郭の濠や二の丸  
の濠が掘られたり、城郭の多く  
の場所に石垣が築かれたりしま  
した。そして、徳川家光の時代、  
加藤明成が、馬出を西出丸と北

出丸に増改築、芝土居を石垣に  
し、空濠に水をたたえ、七層  
（黒色）の天守閣を五層（白色）  
にするなどし、現在の若松城の  
形になったと考えられています。  
この時代以降、幕末まで大規模  
な増改築はなかったものの石垣  
の補強工事行われました。  
このように、蒲生氏郷が築き、  
加藤明成が大改修し、それに続  
く歴代藩主が、時代を超えて防  
備を固め、難攻不落の城へとし  
たのです。この城が一八六八年、  
戊辰戦争で新政府軍の総攻撃に  
一ヶ月も耐えたことは、誰もが  
知るところです。

さて、ここで会津の教育に目  
を向けると、会津域内の教  
育レベルの向上と優れた人材を  
育成するため、小・中・高校が、  
「校種間の連携を生かした人間  
力に満ちた人材の育成」をテー  
マに、子どもたちの学びと育ち  
をつなぐ実践を行っています。  
これは、他域内ではない、会津  
ならではの誇るべき取組です。  
会津の伝統と文化を大切に、  
会津の人々の想いを未来へとつ  
なげ、未来に生きる「あいづつ  
こ」を育てることは、私たち教  
育に携わる者が果たさなければ  
ならない「義」ではないでしょ  
うか。  
石垣の積み方はじめ築城法は、  
時代によって変わってきました。  
しかし、歴代藩主の若松城をよ  
りすばらしい城へと進化させよ  
うとしてきた志は、脈々と受け  
継がれています。教育もまた同  
じではないでしょうか。

## 一学期の反省を生かして

今年度四月に「教職員多  
忙化解消アクションプラン」  
が示されました。このこと  
は、取組の如何により、教  
職員の多忙化解消のみなら  
ず、教職員が子どもと向き  
合える環境の整備にもつな  
がります。つまり、今後の  
学校教育の在り方が変わっ  
てくるものと言えます。

前半の所長（管理）訪問

では、多くの学校において、  
出退勤の時刻管理を徹底し  
たり、ノー残業デー（ノー  
部活デー）を設けるなど、  
多忙化解消に向けての実践  
が確認できました。しかし、  
勤務時間を削減しても仕事  
量が減らなければ、本来の  
多忙化解消とはなりません。  
特出した実践として、A校  
では、職員会議や打合せの  
回数を削減するとともに、  
要項を印刷・配付せずにペ  
ーパーレス化を図りました。  
また、B校では、学年や専  
門部会などの関係職員で具  
体的な削減目標を掲げて取  
り組んでいました。このよ  
うに、「何ができるのか」  
を教職員一人一人が考え、

組織として確実に実践して  
いくことが、多忙化解消に  
向けた今後の課題と言えま  
す。

また、少人数教育や各種  
加配等の活用が注視されて  
います。復興推進加配につ  
いては、今後、大幅な削減  
が危惧されていることから、  
その成果が求められていま  
す。

さらに、特別支援学級と  
通級指導においては、目的  
に沿った指導がなされてい  
ないのではないかと問題視  
されるケースがありました。  
これらは、国の予算を伴  
うものであり、各学校にお  
いては、責任をもって効果  
が得られるよう適切に運営  
にあたっていたいただきたいと  
思います。  
なお、会津教育事務所  
では、前述の取組や課題の改  
善には、所長（管理）訪問  
並びに各種会議や研修会が  
重要であると認識し、今後  
も内容をよりよいものに工  
夫しながら進めてまいりま  
す。

## 総務社会教育課だより

## ～社会教育関係事業の紹介～

### 【これまでに実施した主な事業】

#### 1 家庭教育推進協議会会津地区ブロック会議

- (1)日 時：平成30年6月7日(木)
- (2)会 場：ルネッサンス中の島
- (3)内 容：家庭教育の今年度の方向性について話し合いました。



#### 2 学校・家庭・地域連携サポート事業 放課後子ども教室研修会

- (1)日 時：平成30年7月18日(水)
- (2)会 場：会津若松市立河東学園小学校
- (3)内 容：講話・演習、実践発表、グループ協議、こども教室参観
- (4)参加者：放課後子ども教室関係者、放課後児童クラブ関係者、行政担当者、地域ボランティア等 137名



#### ◇講演・演習「子どもの気持ちの肯定的なとらえ方」

NPO法人明日飛子ども自立の里 理事長 清水 国明 様

#### ◇実践発表「河東学園キッズクラブの取組」

河東学園キッズクラブコーディネーター 土橋 和代 様  
「金小ゆうがたクラブ・よこたふれあい教室の取組」

金山町教育委員会教育係長 五ノ井 智徳 様

#### ◇グループ協議(情報交換)

それぞれの子ども教室における成果と課題を共有しながら、今後の推進に向けて話し合いが行われました。

### 3 読書活動支援者育成事業会津地区研修会

- (1)日 時：平成30年7月31日(火)
- (2)会 場：福島県立博物館 講堂 視聴覚室
- (3)内 容：講演、演習、実践発表、情報交換等
- (4)参加者：司書、読み聞かせ、読書ボランティア等 76名

#### ◇実践発表

- 分科会A 喜多方市立図書館長 須藤 薫 様
- 分科会B 会津若松市立会津図書館 田崎 彩夏 様  
石井杏紗美 様



#### ◇鑑賞・講話

- ボランティアサークル「絵本の窓」 稲垣 優子 様  
加藤 佳恵 様



#### ◇講演・演習「子どもと本を結ぶたのしい読み聞かせ」

JPIC読書アドバイザー 宇野 君代 様

### 【これからの主な事業】

#### 1 ビブリオバトル2018福島県大会

- (1)日 時：平成30年11月17日(土)
- (2)会 場：福島県立図書館
- (3)内 容：中・高校生による知的書評合戦



## 「確かな学力」の向上を目指して

### ～ふくしまの「授業スタンダード」「家庭学習スタンダード」の活用を通して～

ふくしまの「授業スタンダード」を活用した授業改善の取組が2年目を迎えました。第1学期の要請訪問等の授業では、チェックシートの項目が位置付けられた指導案を数多く目にしました。このことから、「授業スタンダード」の活用が浸透してきたことがうかがえます。

本年度は2年目であるため、チェック項目の位置付けはもとより、具体的な手立ての有効性の検証まで到達したいところです。チェック項目の内容を達成するための具体的な手立てを設定し、その手立てにより児童生徒がどのように変容したかを事後研究会等で取り上げて検証してほしいと考えます。また、「授業スタンダード」は常に手元に置き、授業での悩みや疑問が出てきたときに、その都度開いて確認する「手引き」として活用してほしいと思います。

さらに、本年度は「家庭学習スタンダード」の活用による家庭学習の質的向上と習慣化を図るための取組をお願いしています。取組が進んでいる学校は、具体的な実践が軌道に乗り、課題も明確化されています。まだ活用が十分でない学校は、中面上段の「学校の取組」や、裏面の「家庭学習を充実させるための学校の4つの取組」などを参考に、具体的な取組内容を学校で協議してほしいと思います。

「授業スタンダード」のねらいは、「主体的・対話的で深い学び」の実現を図り、子どもたちの資質や能力を育成することです。一方「家庭学習スタンダード」のねらいは、「自己マネジメント力」の育成です。2つのスタンダードを効果的に活用しながら「確かな学力」の向上を図る、実効ある取組をお願いします。

The graphic illustrates a learning cycle with 'Research' (自分を知る) and 'Plan' (計画する) stages. It also features a section for '自己マネジメント' (Self-management) and '家庭学習を充実させるための学校の4つの取組' (4 ways to improve home learning at school). The four ways are: 1. 終極目標を明確に整理し直す (Clarify and reorganize ultimate goals), 2. 課題と学習目標をつなげる (Connect tasks and learning objectives), 3. 内容・方法を整理し直す (Clarify and reorganize content and methods), and 4. 能力・道徳体制を整える (Organize ability and moral framework).

「ふくしまの「家庭学習スタンダード」より抜粋



## 「咲く種として」



会津坂下町教育委員会教育長 鈴木 茂雄

東松峠は、小さい頃から何度も山遊びをした大好きな所である。峠の茶屋跡に建てられた東屋の椅子に腰かけ、足もとから吹く心地よい風に汗を乾かすと、目の前に会津盆地や磐梯山などの景色が広がる。越後街道（塩の道）として、多くの人々が行き来し、お茶を飲み、名物のあんこ餅を食べながら様々な談笑をしたであろう。

茶屋跡の一角に石碑が建てられており、「北越潜行の詩『行無興兮帰無家 國破孤城乱雀鴉…（行くに興なく帰るに家なし 国破れて孤城雀鴉乱る…）』が記されている。秋月悌次郎が戊辰戦争で降伏した会津藩への寛大な処分を水原にいる長州藩士奥平謙輔に嘆願した帰途、東松峠から見える鶴ヶ城を見て悲哀感に襲われ、心の叫びとして書き綴った漢詩である。賊軍とされたことへの憤りや悲しみ、荒れ果ててしまったふるさと会津への思

いが込められている。

悌次郎はこの時、奥平謙輔に会津の将来を託する人材として山川健次郎（後の東京大学総長、京都大学総長）と小川亮（後の陸軍大佐）を推薦し、会津の青少年教育を嘆願していた。悌次郎が母に送った手紙にも「今日の落花は来年咲く種とやら」という記述があり、未来を担う青少年の教育に熱い思いを持っていたことがわかる。

戊辰戦争において、多くの人（花）が会津藩という枝から地に落ち、この峠を越え、ふるさとを離れていった。しかし、移り住んだ地においても、会津人としての誇りを持ち、誠実でまっすぐ生き、多くの業績を残している。今年が戊辰150年。私たちも未来を生きぬく会津の子どもたちが大輪の花を咲かせることができるよう、教育への信念を貫き、咲く花の種でありたいものである。

## 我がまちからの情報発信

湯川村教育委員会

## おもてなしの心

「大相撲千賀ノ浦部屋夏合宿inゆがわ」が今年度も8月19日（日）から25日（土）まで、湯川村のいろいろな施設を会場に、昨年度に続き行われ多くの皆様楽しんでいただきました。

昨年度は初めての試みで、なかなか上手に企画運営できない面もありましたが、今年度は「夏合宿」実行委員会を立ち上げ、行政各課が英知を出し合い、民間団体の全面協力を得ながら、より充実した形で開催することができました。各課の皆さんが、村づくりのために暑い中、額に汗して頑張る姿は、本当に清々しく、あるべき総合行政の姿を見る思いでした。事業を進める中で、どんどん積極的な姿が目立ち、チーム湯川を実感しました。いずれは民間団体や各地区の方々のご支援も一層いただき、オール湯川で力士を迎えられるように、さらに連携の輪を広めたいと思います。

力士の皆さんは礼儀正しく、優しい方々ばかりで村民の方々も積極的に関わっていただきました。朝稽古では、子どもたちに稽古をつけていただき、ちゃんご当番の皆様には特に暑い中、頑張ってくださいました。そして、見学に来られた村民の方々にもちゃんごをご馳走して下さるなど、心からのおもてなしをしていただきま

した。私たち職員にとっても、とても貴重な体験をさせていただき、この体験は必ず今後役立つはずです。

一週間の半ばを過ぎるころには、そのおもてなしの心が職員にも好影響を及ぼしてきたように感じます。これこそが生きた経験といえると思います。

ぶつかり稽古を通して肌で多くのことを感じた子どもたち、土俵以外のところで多くのことを学ばせていただいた地域の方々。あふれる笑顔とやさしさ、温かい思いやりの心を惜しみなく示していただき、多くの思い出とともに終了を迎えました。



# 作品と指導

工作

7回表に勝ちこしランナー!!  
北塩原村立さくら小学校  
6年 高橋 柁音

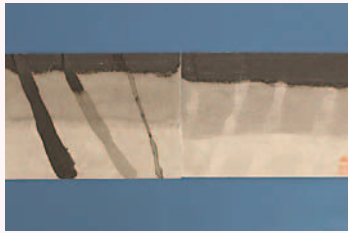


クラクンの仕組みを活かして一塁に向かうランナー、ボールを追うセンター、さらにはホームベースに向かうランナーと、同時に動く三者を生き生きと表しています。周りの様子も工夫され、「試合が動いた」瞬間がよく伝わってきます。

指導者 鈴木 恵美子

絵画

『斜陽』



昭和中立昭和中学校

3年 本名 萩

日本の美意識について学びました。日本らしい表現や構図について鑑賞し、墨を使った表現を楽しみました。調墨や水墨画の技法などを体験する中で自分が見つけた表現を使用し、身近な風景を日本風に表現することができました。

指導者 長谷川 裕美

習字

『無限』

会津若松市立第四中学校  
3年 渡部 雪歩



行書らしい筆づかいで、連続する線を滑らかに書きあげています。一文字のバランスと作品全体のバランスの両方に配慮し、のびやかに仕上げることができました。日頃から書に親しみ、作品と素直に向き合う姿勢が伝わります。

指導者 大塚 初美

## 私の抱負

「捨て目」を使える校長



喜多方市立  
高郷中学校 校長  
木野 秀樹

新採用の頃に買い、その後何度か読み返した本がある。その中に「捨て目」という見出しのついた文章があった。「捨て目」とは意識して見るのではなく、何気なく目に入ってくるような物や景色を心にとどめておくことだ。だからその多くは時間とともに忘れていってしまうのだが、時にそれが引っかけりとなつて残っていて、問題解決の鍵になるような場合もある。だから教師はその「捨て目」が使えるようにならなくてはならないと書かれている。同じ事をおかして「あいづね」第一二一号の巻頭で、当時の所長永嶋啓一先生が書いていらつしやう。このことも「捨て目」の一つなのかもしれない。新任校長となった今、改めて同じ思いでこの言葉をかみしめている。

一期一会の出会い



国立磐梯青少年  
交流の家  
企画指導専門職  
川島 淳

今から二十年前、初任者研修を磐梯青少年交流の家で受講しました。その時は想像もなかった現在の自分がここにあります。何もかもが新しい世界の中で、挑戦する日々が続いています。七月末から行った十三泊十四日の長期キャンプでは、小中学生と一緒に百名山登山や猪苗代湖一周ウォークなどを行いました。生活を共にし、困難な活動をやり遂げた時には、達成感と自然体験活動の意義を感じ、中学校だけでは得られない今後の自分への財産となりました。お客様「また来るね。」の声、見送る時の笑顔といつまでも手を振る姿を励みとし、また会えることを願いながら、企画指導専門職の責務を果たしたいと思います。

新採用養護教諭として



猪苗代町立  
吾妻中学校  
養護教諭  
早川 知里

猪苗代町立吾妻中学校に赴任して、子どもたちの真つ直ぐな瞳、温かく見守ってくくださる保護者の方々、地域の方々、優しく見守ってくださいる先生方、多くの方々に支えられ、早いもので六ヶ月が過ぎました。猪苗代町は、野口英世の出生の地です。初任研を通じて町の歴史を深く学ぶ機会を与えていただきました。英世の功績の素晴らしさはもちろんですが、母・シカの子を想う深い愛が偉業の根底にあることに感動し、無限の可能性を秘めた目の前の子どもたちのために自分は何ができるのかを深く考えた研修でもありました。子ども一人一人の個性を大切に、養護教諭だからこそできる支援をこれからも日々学び続けていきたいと思います。